

7月月例研修会

鞍馬寺から貴船神社へ歩く

—鞍馬山の緑陰と貴船川の清涼ハイキング—

梅雨明け翌日の7月19日(火)、叡電出町柳駅に集合。22名の方が参加して下さる。お天気も上々の青空、鞍馬駅へ出発。車中から見る緑のモミジ葉が涼やかで美しい。鞍馬駅では、真っ赤な顔の(大歓迎?)天狗が迎えてくれる。地図、資料を配り、川井さんから牛若丸(義経)の父母、異母兄弟の話、小田さんからは天狗の元は鳥のトンビとの話があった。こまめな水分補給を心掛けながら駅から徒歩で5分程の鞍馬寺・仁王門に。



【仁王門での集合写真】

門前には狛犬ならぬ寅が。創建者の鑑禎が、鬼女から毘沙門天に助けられたのが寅の月、寅の日、寅の刻だったからとか。見上げるほどの立派な門には湛慶作の仁王尊像が祀られ俗界から浄域への結界となっている。

10月の火祭で有名な由岐神社も近く、そびえる杉の大木に皆から感嘆の声が上がる。

傾斜のある九十九折りの道、「あーしんど!」と、階段を上がると本殿金堂。ここも狛寅、その横に菩提樹が植えられており、小田さんから説明を聴く。金堂前のパワースポットで天を仰ぎ、天空からエネルギーを充電中の人もいる。辛い階段も、時折ひんやりとした空気が流れ汗をかいた身には心地よい。霊宝殿で1時間ほど時間をとり、昼食タイムと自然博物苑や国宝の仏像の展示、義経関連の催しの見学時間にあてる。

午後からもまだまだ続く登り階段、皆さん汗だ

く膝は大丈夫でしょうか。道中「牛若丸息つぎの水」とあり、牛若丸よ貴方でもそうなの、なんて思う。やがて「木の根道」に入る。古代、隆起した鞍馬山の地下には大きな岩盤があり、木の根が下に伸びず地表に表れている。根を踏まないよう、つまづかないよう気を引き締め歩く。

牛若丸が鞍馬天狗と出会い跳躍を鍛錬したという僧正ガ谷不動堂、ゴロゴロした岩の上に奥の院魔王殿が建つ。鞍馬寺西門への道で「鞍馬山の林は極相林」との説明板があり興味深い。裸地に草が生える、陽樹が入り込む、陰樹が入り陽樹を追い出し陰樹の林となる。これには2~300年の歳月がかかる。このシイ、カシ類、カゴノキ、杉が夏の日差しに覆いをかけてくれる。少々疲れが出てきて、各自のペースや興味によりグループが前後に長く伸びてくる。

貴船川沿いの川床料理屋を眺めながらも、清涼なる川音が耳に入る。貴船神社奥宮は、玉依姫命が黄色い船に乗って着き水神を祭ったとの伝えどおり小石で覆われ苔むした舟形石が横にある。



【貴船神社奥宮】

入り口近くには杉と楓が仲睦まじい「連理の杉」。中宮(結社)は縁結びの神様。たくさんの結び文が、所狭しと結ばれている。本宮への石段の両脇に並ぶ朱の灯籠が目を惹く。幾本もの七夕飾り、若い人たちが水に浮かぶ占い紙を覗きこんでいる。

御神木のカツラの葉をもむとカラメルの香りがして疲れが解けていくような・・・。

最終地の貴船口駅へ。途中キツネノカミソリを見かける。出町柳で解散する。沢山の階段と山道の下り、お疲れになったことでしょう。少しでも楽しんで頂けたなら、怪我もなく無事に終えることができ感謝しています。(山中笙子)